

地域の課題について学び、ともに考え、解決策を探求する

とやま塾 in TOGA

報告書 2017



地域の課題について学び、ともに考え、解決策を探求する

とやま塾 in TOGA

2017年9月12日～14日

富山大学、富山県立大学、富山国際大学は、富山COC+事業の目的である〈未来の地域リーダー育成〉のため、3大学の学生（各大学4名ずつ）を対象に、地域課題について学び、その課題をともに考え、解決策を探求する2泊3日の合宿型セミナー「とやま塾 in TOGA」を南砺市利賀村にて開催しました。このセミナーは、学生たちが、1. 地域の人々や、他の高等教育機関の学生と交流し、コミュニケーション力を伸ばし、2. 利賀の素晴らしい自然や文化に触れることで、富山の良さを知り、地元への愛着を深め、3. 利賀に代表される地域の課題を理解し、その解決策を協働しながら模索し、地域貢献の態度を醸成するとともに協働力、課題解決力を高めることを目的としています。

1 日目

2017.09.12

利賀村基礎講座

まず初めに利賀行政センター長 宮下秀明氏から、地域リーダーを目指す学生たちに期待する挨拶があり、それに引き続き『利賀村基礎講座』として二つの講話が行われた。

『利賀村の歴史』（瞑想の郷館長 浦辻一成氏）



利賀村を含む五箇山には、平家落人伝説があるが、約 4 千年前から人が住んでいた痕跡がある。林野率 97% の山村で、昭和 30 年代になってやっと米を自給自足できるようになった。一方、養蚕業、木炭の生産は戦後大きく縮小していった。昭和 44 年には「利賀民俗館」ができて、この時が利賀観光元年と言われている。同年には東京の宝仙学園短大が夏期合宿を開始し、49 年に鈴木忠志氏が早稲田小劇場の公演を開始し、53 年には利賀村で劇団スコットが結成され、今ある利賀演劇祭がスタートした。

人口は戦後の一時期を除き徐々に減少していき、明治末には、約 4,500 人であったが、現在は、約 500 人という状況であり、地方交付税が 48 パーセントという財政状態において、平成 16 年の大合併を決断して、現在は南砺市に含まれる。

『利賀地域の課題』（利賀地域ふるさと推進協議会会長 野原宏史氏）

観光分野では、利賀スキー場廃止に続き、平成 25 年にはスノーバレースキー場も閉鎖することになった。現在、子どもたちのために、スノーバレースキー場にロープリフト設置を計画している。

一方、林業の 6 次産業化、薪ボイラーなどの推進、芍薬の栽培および販売に力を入れ、新たな産業分野開発を目指している。

さらに、トレイルランコースの整備、国際キャンプ場の整備、その周辺での散策路の整備、また、コテージの建設、グルメ館の整備も計画している。

今後は、空家を活用して、利用可能にすること、利賀移住者の促進が課題である。

人口減少は止められないにしても、少ない人口でも、この地域を守っていこうという意識が大事であると考えます。



アイスブレイク&グループ編成



講座修了後、COCOS*の学生が進行し、アイスブレイクをして、交流を深め、それぞれ取り組みたい利賀村の地域課題を出し、それに基づいて地域課題別グループ編成がなされた。

所属大学が偏らないように、グループに分かれ利賀の地域課題解決に向け研修を進めることになった。

*COCOS：富山県立大学地域協働研究会

市長・学長を交えた夕食会

その後、12 人の学生は、田中幹夫氏（南砺市長）、宮下秀明氏（利賀行政センター長）、野原宏史氏（利賀地域ふるさと推進連絡協議会会長）、谷井進氏（利賀ふるさと財団事務局長）、遠藤俊郎（富山大学長）、石塚勝（富山県立大学長）、中島恭一（富山国際大学）、鈴木基史（富山大学理事・副学長）及びコーディネーター・教職員とともに夕食をとりながら楽しく懇談した。



2日目

2017.09.13

新利賀山房・野外劇場・瞑想の郷

谷井氏の案内の下、利賀創造交流館にて、利賀演劇祭のDVDを鑑賞してから、新利賀山房と野外劇場を見学、そのスケールの大きさに、また演劇祭の映像に学生たちは興味を持ったようである。



瞑想の郷に移動、浦辻館長の案内で、まずは瞑想の郷のDVDを鑑賞してから、施設の2階にある収蔵品を見て、最後に曼荼羅の解説と鑑賞、さらには曼荼羅絵に囲まれた部屋で瞑想体験を行った。



そば打ち体験

そばの郷に移動、学生たちは、「うまいもん館」の協力により、そば打ちを体験し、自ら作ったそばに舌鼓を打った。



山村農業体験

午後は、グリーンツーリズムとして「利賀百姓塾」を主催している、民宿「中の屋」の中西邦康氏の指導の下「ウドの株分け」を行う農業体験をした。耕耘機を初めて使い、学生たちの共同作業で短時間に新たな開墾地に多くのウドを移植した。



利賀移住者との懇談会

moribio 森の暮らし研究所代表の江尻美佐子さんの話



林業は、木を育て切って運ぶ仕事である。

静岡で暮らしていたが、夫の親の介護のために、19年前に富山に帰ってきた。自然と接する仕事をしようと、利賀村の青年山村協力隊に応募、空き家に住むこととなった。来た当時は人口1,000人で今の2倍いた。人間関係が濃いコミュニティ。ある時、どの部屋に寝ているかも聞かれた。これは、村の消防組織が、初期消火するために、火事が起こったときの救出のための情報を収集が目的。

林業に携わり、自然のまっただ中で行う仕事に喜びを感じている。「森の大学校」を作り、自然と調和した、持続可能な環境を守る林業を広げようとしている。

RingLink 谷内千尋さんの話

個人事業主、地域密着型何でも屋さんである。

利賀演劇祭の主要スタッフでもあり、演劇祭の時には、県立大学の学生他、多くの県外の学生にも手伝ってもらった。

父が大阪北部で酒屋さんをしていたが、阪神大震災で家業の運営が苦しくなり、中学2年の時に利賀村に移住。結婚して、大阪に暮らしていたが、子どもを保育所に入れるのも大変、子育てのために利賀村に帰ってきた。

最初に移住した冬、大雪で半ば孤立、その時隣のおじいさんが突然来て、かんじきを作って持ってきてくれた。その時最初に、利賀村の人の優しさに触れた。



ハロウィンカボチャ生産者の吉田信一郎さんの話

利賀村に移住して1年。なぜ利賀村かというと、過疎地は閉鎖的だという偏見を持っていたが、いろいろ調べると、県内外の学生との交流や国際交流も盛んにやっていて、開かれた所という印象を持った。実際、ハロウィンカボチャを作ろうと言ったときも、土地も家も貸してくれた。

なぜハロウィンカボチャ作りかかというと、利賀村は、田畑が狭く、大規模農業は不可能であるので、収益性の高い園芸作物を探していた。利賀村は伯爵カボチャが特産で有り、カボチャは病虫害に強いということで高い収益が見込めるハロウィンカボチャを選んだ。

種は海外からの輸入、販路の開拓もしなければならないがやりがいがある。



移住者と学生たちは、夕食をともにし懇談を行った。



3日目

2017.09.14

学生による課題解決プレゼンテーション

地域おこし協力隊による利賀の活性化

大巻 翔（富山県立大学）・土屋 樹（富山県立大学）・
畑 琢也（富山国際大学）・松葉 迅斗（富山国際大学）

地域おこし協力隊による地域の活性を提案。また地域おこし協力隊に学生枠を設け、学生が休学等で長期参加することで地域を活性化する提案がなされた。



①

地域おこし協力隊 による利賀の活性化

富山県立大学 大巻 翔
富山県立大学 土屋 樹
富山国際大学 畑 琢也
富山国際大学 松葉 迅斗

②

富山塾 in TOGAの目的

他の学校との学生との交流でのコミュニケーション力向上

利賀の文化に触れ、地域への愛着を深める

利賀の地域課題を理解しその解決策を模索することで
課題解決力を高める

③

利賀の地域課題

利賀の地域課題をお話いただいて

いろいろ課題があったが一番は



利賀の人口減少

④

地域おこし協力隊

⑤

地域おこし協力隊とは

地域外の人材を受け入れ、3年間
「地域協力活動」に従事してもらう制度

隊員の定住・定着と合わせ
地域力の維持・強化を図る

平成27年には673の自治体で2625人の
隊員が活躍している

⑥

朝日町では



小松裕亮さん(22)

⑦

朝日町では

「とやま農山漁村インターンシップ」参加から

朝日町での生活に興味

→地域おこし協力隊として移住

大学卒業後すぐ

⑧

これを利賀で活かさないか
これで利賀の課題解決
できないか…?

⑨

が、しかし

⑩

いい話だけど悪い話
と
いい話

⑪

いい話だけど悪い話

利賀にはもう地域おこし協力隊の方が
いらっちゃった！
→既存だった！

子供を預けられる施設を作ろうと
検討中してらっしゃるとか

⑫

いい話

利賀で事業などをするとメリットが多い！
→注目されやすい
→コストが低くリスクが少ない

利賀はよそから入ってきたものに寛容！

⑬

他にも

地域おこし協力隊の失敗する例

→思ったよりも忙しくて
軽い気持ちで来たが・・・

→地域の人に受け入れられなくて

→行政の扱い・自由に動けず

⑭

利賀×地域おこし協力隊

⑮

学生こそ向いている！？

⑯

学生の強み

地域に思いを持った学生が意外にいる

「学生」という保険がきく
→慶応の例

⑰



⑱

学生の強み

- ・思ったよりも忙しくて
軽い気持ちで来たが・・・
→地域に思いを持った学生なら
やっていけるしその先も
- ・地域に受け入れられずらい
→学生の方が受け入れられやすい

⑲

COC+ 的な話

役所と連携して地域おこし協力隊
(など)への学生枠

地域に思いを持つ学生にとっても嬉しい

汎用性アリ？

⑳

まとめ

地域おこし協力隊を利用したの
利賀への移住者確保に
→人口減少防止の1歩目に！

学生という若い力を使っの活性化

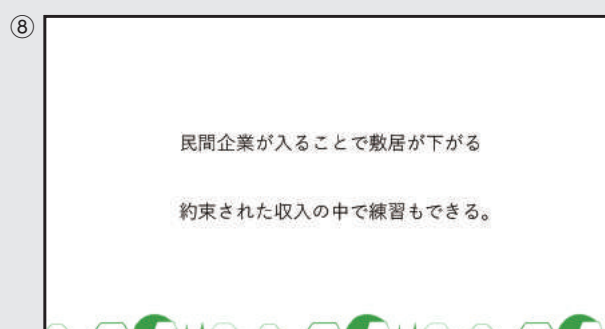
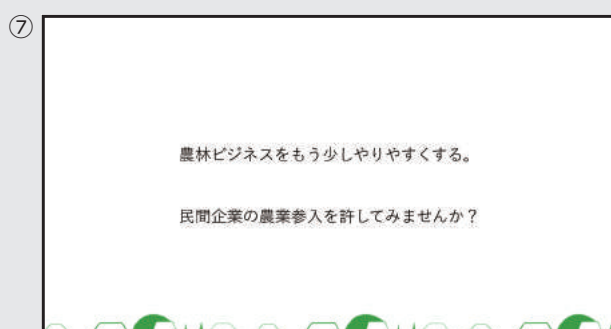
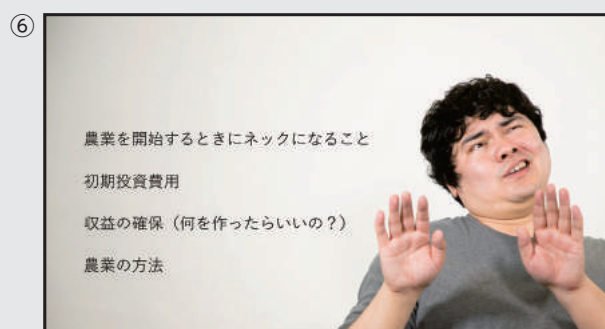
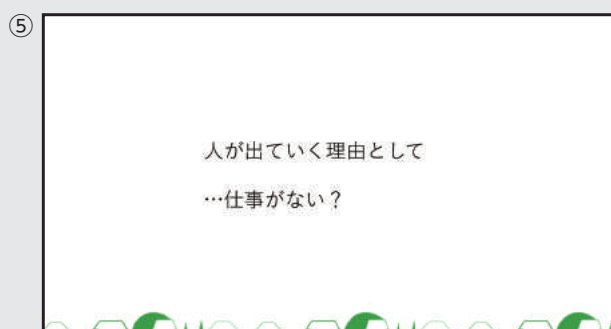
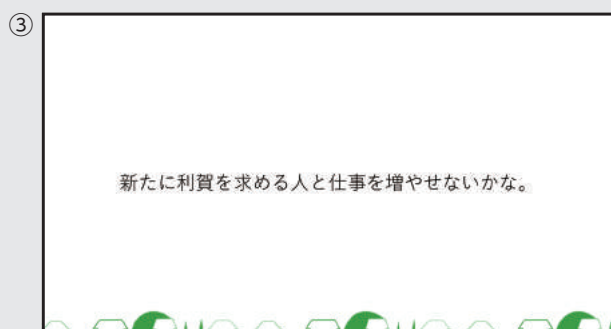
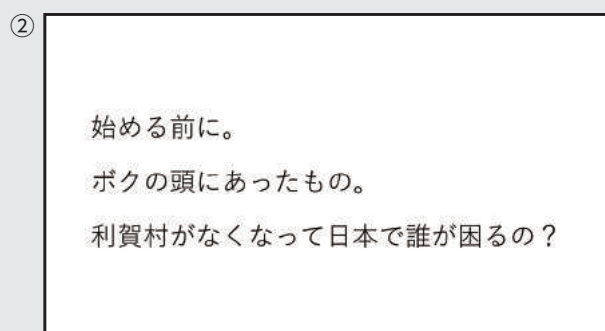
㉑

ご静聴ありがとうございました

利賀農業推進計画

蛭田 哲也（富山大学）・肥田 真司（富山大学）・
榊原 拓実（富山県立大学）・大崎はるき（富山国際大学）

兵庫県養父市や、新潟市の例に倣って、農業特区として企業も誘致し、商品価値の高い農産物づくりを行う。そのことによって、移住者も増え人口増に繋げるといった提案がなされた。



⑨

民間企業が参入した場所の例
 参入するにあたって
 期待される効果



⑩

農業分野→岩盤規制

⑪

先例



農業特区…地域限定で規制緩和
 (2014年)

⑫

なぜ養父市？

- ・土地の担い手不足
- ・耕作放棄地の拡大
- ・人口減少

～養父市の統計～

項目	人口	高齢化率	耕地面積	総農家数
1960年	44,884人	10.3%	3,012ha	6,014戸
2010年	26,501人	33.1%	1,594ha	2,769戸

項目	耕作放棄地面積
2008年	118.7ha
2012年	226.3ha

⑬

企業は何をしている？

- ・お酒の製造



- ・ニンニク、リンドウ、小菊、レタス生産



⑭

結果（養父市→法人）

許可件数**3年間で48件！！！！**

⑮

仕組み



◎農地流動化…農地の権利移動（貸借、売買）のこと。

⑯

その後



企業が介入したその後の展望があり、その土地にまで良い効果がはたらく。

⑰

ところで…

当時の養父市って
 現在の利賀村に似てない？

さらに！利賀村の利点！

昼と夜の寒暖差が大きい

→美味しいものを作るために有利！



⑱

小ネタ

寒暖差が大きいと美味しいものが作れる！

昼間→光合成

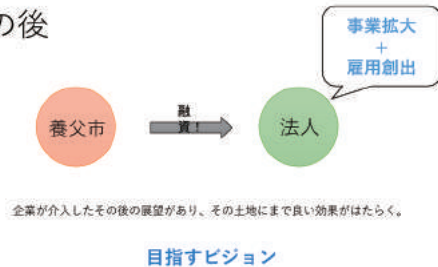
夜間→呼吸

☆夜間の呼吸量☆

涼しいほど呼吸量減少＝糖の消費が少ない！

①9

その後



②0

企業が農業に参入する場合の要件（農地法）

農地を所得する場合

→ 農地所有適格法人でなければならない

農地を借りる場合

→ 賃借契約に解除条件が付されていること

地域における適切な役割分担のもとに農業を行うこと
業務執行役員又は重要な使用人が1人以上農業に常時従事すること

②1

企業が農地を借りるためには

農地法

- ・ 農地集積バンク
- ・ 農業委員会等の許可を受ける

農業経営基盤強化促進法

- ・ 市町村が定める「農用地利用集積計画」

②2

農業経営基盤強化促進法による貸付条件

農地法の条件を適用しなくても良い

市町村で独自に定めることができる

地域の意向に沿って農地利用を推進することができる

活用例として

南砺市 青壮年の農業従事者を条件としている

②3

期待される効果

企業が参入することで・・・

②4

例）岐阜県高山市

①耕作放棄地の活用



地域活性化

②5

② 雇用の増加



移住者増加



地域活性化

②6

③利賀村産の農作物の流通量up

→ 利賀村のPRに

②7

④農家の方々が企業が持っているマーケティングのノウハウを学べる

→ 既存の農作物の新たな販路の拡大

→ 企業が行った成功した新しい栽培方法を農家にも拡大

例）鹿児島県蒲生町

②8

これらのことから利賀村
のメリットは大きい

合宿地として地域活性化

野牧 遼（富山大学）・森 浩晃（富山大学）・
石丸 雅裕（富山県立大学）・中島 康輔（富山国際大学）

利賀村の空き家を改造し、合宿施設として利用、合宿拠点として地域を活性化する提案。
建築系の学生のゼミ合宿による空き家改造の提案、演劇の拠点である利賀だからこの
演劇合宿、家族連れでの自然や農業体験合宿など多様な活用を例示。



①

合宿地としての地域活性化

②

現状

- ・イベントに積極的
- ・演劇の施設が充実している
- ・宿泊施設が少ない

③

課題

- ・イベント開催時に泊まれる場所が不足する
- ・イベント以外での利賀村の魅力があまり知られていない
- ・少子高齢化によって、将来の村の担い手が減少
→「合宿」をきっかけに、利賀村を知ってもらう

④

提案

3パターンの合宿の提案

①建築系ゼミの誘致
長期スパンでリノベーション(空き家リフォーム) ➡ 民宿化

②(対象：高校、大学の演劇部)舞台を提供する
(時期：通年)

③自然体験
森の大学校、エコロの森等と連携

⑤

合宿内容① 空き家改修合宿

一過性で終わる ➡ 

継続的な活動 ➡ ノウハウを学べる

そうした若い力、アイデアが
循環出来るようになることが最終目標

⑥

とよさと快蔵プロジェクトの例

- ・滋賀県の豊郷町の空き家問題に取り組む
滋賀県立大学の学生団体。自身達が改修、運営をしているバーなどもある。
- ・こうした学生、OBと一緒に富山の建築を学ぶ学生が交流し、連携してリフォームに参加することで

富山にもこうした団体を作るキッカケになる！

⑦

合宿内容② 演劇合宿

- ・対象：中学、高校、大学の演劇部、サークル
- ・日程：3～5日間
- ・目的：各々の演劇のレベルを上げる。
プロが使う舞台に立つ経験をする。
- ・内容：利賀村の舞台を利用した稽古
利賀村の人々に対しての演劇披露
➡ 利賀村への愛着、リピーターの増加

⑧

合宿方法③ 自然体験合宿

- ・対象：家族連れ、子供会
- ・時期：夏季中心
- ・内容：1日目

昼：そば打ち体験、そば美食	午前：ワークショップ
午後：アスレチック、イワナつかみ取り	昼食：カレー
夕食：BBQ	午後：帰宅
- 2日目

⑨

木を切る機会の減少

過去：薪で風呂を沸かすために木が必要
現在：給湯器などで風呂を沸かすため、薪を使わない

木を切る機会の減少＝森林のサイクルに狂いが生じる
そこで

⑩

アスレチックを作る

アスレチックを作るために木を切る。

薪などで使っていた分の木を利用することができる。

うまく森林のサイクルを回すことができる。

⑪

合宿方法③ 自然体験合宿

・対象：家族連れ、子供会

・時期：夏季中心

・内容：1日目

昼：そば打ち体験、そば美食

午後：アスレチック、イワナつかみ取り

夕食：BBQ

2日目

午前：ワークショップ

昼食：カレー

午後：帰宅

⑫

得られる効果

1. 村の抱える問題

2. 演劇

3. 自然・食

⑬

村の抱える問題の面

土地や民宿のオーナーを募集

新規雇用が創出される

定住者の増加

人口減少問題の改善

・空き家を民宿として有効活用できる。

・林業や役場といった働き口以外に民宿経営という新たな働き口が加わる

⑭

演劇の面

SCOTが実際の公演で使用している舞台を練習場として提供

→学生などもより良い環境で練習することでスキルの向上が望める

→演劇を地元の人たちに観てもらうことで地元住民は楽しむことができ、演者は合宿での成果を披露できる

⑮

演劇の村、利賀村！！

⑯

自然・食の面

宿泊型の自然体験プログラム実施

→イワナつかみやアスレチック、キャンプを通して利賀村の大自然や食を感じてもらうことができる

→利賀村の自然保護、食産物をアピールすると共に、たくさんの子供たちが村に来ることで、プログラムを通して地元の人とふれあい、**お互いに笑顔が生まれ、村に活気が溢れることになる！**

⑰

まとめ

利賀村の特長を生かした合宿の開催

↓

利賀村の魅力を認識してもらえる

↓

利賀村に愛着を持ち、移住定住につなげる！

最後に、谷井進氏（利賀ふるさと財団事務局長）、宮下秀明氏（利賀行政センター長）、斎藤嘉久氏（南砺市商工会利賀村事務所経営指導員）、吉田信一郎氏（ハロウィンカボチャ生産者）、谷内千尋氏（RingLink 代表）による講評が行われた。

修了証授与式

参加 12 名の学生に富山大学、富山県立大学、富山国際大学 3 学長が署名した「とやま塾 in TOGA 修了証」が授与された。







文部科学省

地(知)の拠点

| ALL 富山 COC+ |

富山大学 地域連携推進機構 地域連携戦略室

〒930-8555 富山市五福3190 学生支援・地域連携交流プラザ2F

TEL 076-445-6177・076-445-6519 FAX 076-445-6033 t-senryaku@adm.u-toyama.ac.jp

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。